

令和元年度

高齢社会フォーラム in 東京

参加無料

日時：令和2年1月20日(月)
13:00～16:30(12:30開場)

会場：イイノカンファレンスセンター4F

定員：200名

目指せ！ 活躍と健康の好循環

～誰もが参加できる新しい地域づくり～

今後ますます高齢化の進展が見込まれる日本。人生100年時代といわれる中で、若者からシニアまで活躍できる社会を皆でつくることを目指し、地域社会や民間団体、行政等が取り組めることについて、共に考えていきましょう。

12:30

13:00

13:10

14:00

14:10

14:20

16:30

受付・開場

開会挨拶(内閣府)

基調講演

高齢社会対策説明(内閣府)

休憩

分科会

閉会

基調講演

ひとりも 地域も： 100年の一生を拡張するテクノロジー



檜山 敦

東京大学先端科学技術研究センター講師

東京大学大学院工学系研究科修了。博士(工学)。東京大学先端科学技術研究センター講師、理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダーを兼務。専門は人間拡張工学、バーチャリアリティ、ロボティクス。100年の一生を通じて参加できる社会を目指し、ひとりひとり、そして地域の「できる」ことを増やすテクノロジーの研究開発に取り組んでいる。著書に『超高齢社会2.0～クラウド時代の働き方革命～』(平凡社新書)。シニアの柔軟な働き方を推進するジョブマッチングプラットフォーム「GBER」や、心身を活性化させるVRシステムなどの研究を、社会実装へ向けて実証展開している。Laval Virtual Trophy、IFIP Accessibility Award 等受賞。

第1分科会

人生100年、 誰もがいきいきまちづくり



コーディネーター

木村 民子

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事
絵本アドバイザー

人生100年時代は、高齢者自身が健康を維持しつつ、高齢者同士が助け合い、社会を支える原動力になることがおおいに期待されます。この分科会では、高齢者が高齢者を支える活動や、各世代との交流を通して、地域の活性化を図る試みを紹介します。

※キーワード：SDGs(Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標から「住み続けられるまちづくりを」、エイジレス社会、世代間交流

パネリスト

■佐々木 都 / 旅館女将

長野県佐久市の130年以上続く老舗旅館「清集館」の跡継ぎと結婚。旅館の女将として多忙を極める中、地域や女性のための活動を長年続け、随筆集、短歌集を多数出版するなど、文筆家としても知られている。主な著書に『88歳・佐々木都という生き方』がある。令和元年度エイジレス章受賞。

■小堀 鶴一郎 /

社会医療法人社団 堀ノ内病院地域医療センター在宅診療科医師
東京大学医学部卒業後、東京大学医学部附属病院第一外科、国立国際医療研究センターに勤務後、国際医療研究センターの堀ノ内病院長を務める。定年退職後、埼玉県新座市の堀ノ内病院に赴任、在宅患者への訪問診療に携わる。平成30年、訪問診療医としての看取りの経験を基に『死を生きたい人びと 訪問診療医と355人の患者』を執筆。同書で第67回日本エッセイスト・クラブ賞受賞。

■奥山 千鶴子 /

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長
平成12年4月、地域の親たちと商店街空き店舗を活用して子育て家庭の交流の場「おやこの広場びーのびー」を立ち上げる。現在、横浜市にて地域子育て支援拠点事業に加え、地域のシニア世代等の協力を得て、子育て家庭のためのファミリー・サポート・センター事業、小規模保育事業、多世代交流の場、産前産後ヘルパー派遣事業等を手掛けている。厚生労働省地域共生社会推進検討会委員等。

第2分科会

世界と一緒に考えよう！ アクティブ・エイジング



コーディネーター

松田 智生

株式会社三菱総合研究所
プラチナ社会センター主席研究員

◇活力ある高齢社会は世界共通の目標であり、世界一の高齢化率の日本に注目が集まっています。
◇日本国内で活躍する海外の有識者と日本のアクティブシニアを招き、それぞれの取組みを紹介します。
◇目指すべき高齢社会像は何か、それを実現するための課題や解決策を討議します。つまり、「世界と一緒に考えるアクティブ・エイジング」が本分科会の狙いです。

パネリスト ※全て日本語で行います。

■ティツィアナ・アランプレセ /
FCA ジャパン マーケティング本部長

イタリア・ナポリ東洋大学で日本政治文化経済学を学んだ後、奨学生として来日し、九州大学大学院を卒業。フィアットグループでは顧客サービス、DIGITAL 活用を含む様々なマーケティングやCRMの部門を歴任し、Fiat & Abarthの日本カンパニーマネージャーに就任、現在は FCA ジャパンのマーケティング本部長に就任。2010年にはイタリアと日本の交流や発展に寄与した人物に対して贈られる「イタリア共和国功労勲章」をイタリア大統領より受賞。

■フランク・ヴァルデンベルガー /
ドイツ日本研究所 所長

ドイツ出身。1992年から5年間専任研究員として、日本の産業組織、雇用システム、金融制度について研究。1997年ミュンヘン大学の経営学部、日本センター教授に就任。以来コーポレートガバナンス、日本の国際経済、金融・財政政策と研究テーマを拡げる。

■牧 壮 / 牧アイティ研究所 代表

慶應義塾大学工学部卒業後、旭化成勤務。定年退職後、牧アイティ研究所を設立。マレーシア・ペナン島へ13年間移住して、インターネットを活用したグローバルなワークスタイルを実践。帰国後、IoT: Internet of Seniorsの構想を啓蒙・推進。アイオーシニアズジャパン代表理事としても活躍中。

第3分科会

認知症になっても皆がゆるやかに つながる地域の創り方



コーディネーター

澤岡 詩野

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団
主任研究員

認知症になっても一人の住民として安心して自立した生活を続けるためにはなにが必要なのでしょう？ 専門家や家族の支えと共に求められるのが、地域の多様な人々との日常的なつながりといえます。分科会では、認知症になっても皆がゆるやかにつながる地域を目指してタネマキを始めた東京都板橋区赤塚の取り組みから、そのヒントを見つけていきます。

パネリスト

■水野 隆史 /

若年認知症いたばしの会 ポンテ事務局
みま～もいたばし発起人 事務局
中央大学法学部卒、慶應義塾大学卒、日本社会事業大学卒。病棟看護師、地域包括支援センター勤務。若年認知症の人に会い、一緒に若年認知症いたばしの会を立ち上げる。その後、地域の多様な人々とともにみま～もいたばしを立ち上げ、誰もがつながり合うまちづくりに取り組んでいる。

■矢作 貴見 /

NPO法人チーム赤塚 理事・株式会社和生 代表取締役
大手物流会社勤務後、独立し現在に至る。ライフワークとして、NPO法人チーム赤塚を運営している。NPO法人チーム赤塚とは、東京都板橋区の下赤塚地区約人口5万人に対して、まちづくりの中間支援をする団体である。「顔の見える関係づくり」を目標に、赤塚地域の活性化の為に活動している。

■三枝 節夫 / 赤塚新町地区 会長

立教大学経済学部卒業。平成10年度から18年間板橋区体育指導委員(現スポーツ推進委員)を務め、平成24年度からはスポーツ推進委員協議会会長を4年間務める。平成26年度から青少年健全育成下赤塚地区委員会会長を務め、現在は赤塚新町地区会長及び公益社団法人板橋区法人副会長として活躍中。

【主催】内閣府

【後援】文部科学省、厚生労働省

裏面の申込書にてお申し込みください▶▶▶

令和元年度 高齢社会フォーラム in 東京

参加希望の方は、WEB サイト、FAX または郵送にて下記宛先までお申し込みください。
 本フォーラムは、全日参加を原則としております。受付確認後に『参加証』を発送いたします。
 ※応募は先着順です、定員になり次第締切といたします。

お申し込み方法

WEB 専用フォームからお申し込みください。 <https://fs223.formasp.jp/u795/form5/>

FAX 下記申し込み欄にご記入の上、送信してください。 **03-3370-2017**

郵送 下記申し込み欄にご記入の上、次の宛先に郵送してください。
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5-608 令和元年度 高齢社会フォーラム事務局 (ヒップ内)



参加者氏名	ふりがな	年齢	
	歳	
所属団体名		所属部署・役職	
電話番号		FAX 番号	
Eメール			
住所	〒		
これまで「高齢社会フォーラム」に参加したことがありますか？		<input type="checkbox"/> ある () 回	<input type="checkbox"/> ない
「高齢社会」について、疑問に思っていることや伝えたいことなどを自由にお書きください。			
ご希望の分科会	第1分科会	・ 第2分科会	・ 第3分科会
手話通訳は必要ですか	1. 必要である 2. 必要でない	要約筆記は必要ですか	1. 必要である 2. 必要でない

※個人情報は本フォーラム以外の目的では使用いたしません。

会場アクセス

●イノカンファレンスセンター 4F

東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング

- ・ 東京メトロ 日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅C4出口直結
- ・ 東京メトロ 丸の内線「霞ヶ関」駅B2出口 徒歩5分
- ・ 東京メトロ 銀座線「虎ノ門」駅9番出口 徒歩3分
- ・ 東京メトロ 有楽町線「桜田門」駅5番出口 徒歩10分
- ・ JR 山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線、都営地下鉄浅草線、ゆりかもめ「新橋」駅 徒歩10分
- ・ 都営地下鉄 三田線「内幸町」駅A7出口徒歩3分



お問い合わせ先

令和元年度 高齢社会フォーラム事務局 (土・日・祝を除く9:00 ~ 18:00)
 TEL : 03-3370-2411 FAX : 03-3370-2017 E-mail : kourei@hip-ltd.co.jp